

(様式2)

平成 25 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101018		
法人名	社会福法人 友愛会		
事業所名	グループホーム ひまわりの家		
所在地	新潟県新潟市東区下山3丁目1407-1		
自己評価作成日	平成25年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成26年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様お一人お一人のペースを大事にしながら関わり、その人らしく家で暮らしているような、穏やかに笑顔のある生活ができるよう支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は割烹料理店だった建物を改装したもので、居室や共用空間が広く、ゆったりとした雰囲気がある。

職員は利用者とのコミュニケーションを大切にし、一人ひとりの思いに添ったケアの実践に努めている。食事は利用者と共にテーブルを囲み、会話をしながら楽しい時間となるよう心がけている。外出希望にもできるだけ対応するよう努め、散歩やドライブに出かけている。ケアカンファレンスは毎月行い、個々の利用者への対応等について意見を出し合い、より良いケアが提供できるように検討している。利用者の様子は毎月、手紙で家族に伝え、利用者と家族との関係が途切れないよう配慮している。避難訓練についても的確な避難誘導ができるよう毎月行われている。

職員間のコミュニケーションも良く取れている。フロア会議や主任会議を通じて職員の意見が運営に反映されており、施設長も職員が意見を出しやすい雰囲気作りを行っている。

平成24年11月、有限会社から現在の社会福祉法人へと運営母体が代わり、新たなスタートを切ることとなったが、施設長や職員は事業所が今後取り組むべき課題を理解しており、今回の自己評価も職員全員で項目ごとに確認を行い、課題を見出した。そこに施設長、職員が一丸となって取り組もうとする意欲がうかがえた。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールや玄関に掲示してあるが共有・実践できていない。	法人の創設時に作られた理念を玄関や各フロアに掲示している。その理念を念頭に、毎年、フロアごとに職員が考え目標を設定し、より良い支援を目指している。	理念は見やすい所に掲示されているが、職員間で理念についての振り返りは行われていない。理念は事業所の方向性を示すものであり、全職員の拠り所となる大切なものであることから、今後は定期的に話し合いの機会を持ち、事業所が目指すサービスの提供を実践していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や買物に出かけた際に挨拶を交わす程度で日常的な交流には至っていない。	事業所の行事である夏祭りのチラシを地域に配布し、参加を働きかけている。また地域のコミュニティーセンターのクリスマス会などの催し物に参加している。散歩時等で挨拶や声を掛け合う関係はできているが地域の住民が日常的に尋ねてくれるような関係性には至っていない。また、コミュニティー協議会に参加し、ボランティアについての情報収集を行っているが来訪する方は少ない状況である。	今後さらにボランティアの受け入れや学校、保育所などとの交流、認知症の専門性の地域への発信、広報紙の発行などを検討し、地域との交流をさらに広げられるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として実習生の受け入れにて地域の人々に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内の活動を報告し、参加者全員より意見を出して頂き情報交換を行っている。	利用者の代表、家族の代表、地域包括支援センター、民生委員らに参加してもらい、2か月に1回開催して、事業所の取り組み状況を伝え意見をもらっている。自治会長の参加をお願いしているが、いまのところ参加は得られていない。	自治会長など地域住民の参加が得られるよう今後も働きかけが望まれる。また、より会議を意義あるものとするため、運営状況の報告に加え、外部評価の取り組み状況や改善状況の報告、さらに会議のテーマを設けて意見をもらうなど、より一層の取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員より運営推進会議に参加して頂いている。その他は必要な場合に連絡・相談を行っている。	事業所の取り組みや状況については、運営推進会議で地域包括支援センター職員に伝えている。また、手続きや制度等、分からないことは行政担当課職員にその都度聞き、利用者の件についても相談するなどして、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な身体拘束は行っていないが、ホームが国道に面している事から玄関の自動ドアは内側から自動には開かずスイッチも利用者の手の届かないところにある。	保護衣や四点柵などの使用はなく、日中の玄関の施錠もない。身体拘束に関する研修に参加し、関係する資料は回覧して、身体拘束のないケアに努めている。	玄関の自動ドアが内側からはスイッチで開くが利用者には使えない状況にある。またエレベーターがなく、2階の、特に車椅子の利用者の階下への移動が制限されている状況にある。事業所が国道に面していることや建物の構造の問題はあるが、利用者の行動をできるだけ制限しない工夫について検討することを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少ないがケアカンファレンスにて一人ひとりのかかり方など話し合い注意を払っている。	虐待についての研修に参加し、毎月のケアカンファレンスでは利用者への対応について虐待防止の観点から話し合っているが、関連法について学ぶ機会は少ない。外泊後の様子については、職員間で共有し、虐待を見逃さないようにしている。	今後はさらに、虐待に関する研修について積極的に参加し、資料の回覧に加えて、伝達研修等を定期的実施して、全職員が高齢者虐待についての正しい理解と周知を図り、虐待を見逃さない事業所作りに取り組んで行くことを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方はいるが、職員は学ぶ機会がなく理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金、医療連携体制など詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族からの意見、また面会時などで聞いた意見・要望はノートに記録し職員同士情報を共有し運営に反映するようにしている。	介護計画作成時に本人、家族から意見、要望を聞いている。面会時は意見を出しやすい雰囲気作り心がけ、事務的な連絡をする際も家族の話聞くようにしている。また、運営推進会議でも、利用者、家族の代表から意見をもらっている。出された要望等は記録し、職員で共有し、運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議などで日頃からコミュニケーションをとっている。	フロア会議や主任会議で職員から意見や要望、提案が出され、運営に活かされている。また、各フロアの主任や施設長は職員とのコミュニケーションを大切にし、会議の場以外でも職員の話聞くよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で一人ひとりが目標を持ち向上心を持っていけるよう職場環境や条件が良くなったと感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を把握し外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される研修など参加しネットワーク作りに努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談などで性格、生活歴、職歴など細かく聞き、また本人の要望に耳を傾け安心できる関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接、事業所見学、契約時に不安や要望を確認するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接の際にご本人、ご家族の要望や不安などを把握し、必要なサービスにつなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側という意識を持たず和やかな生活が出来る様、場面作り、声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の生活、状態を毎月手紙にて報告し関係が途切れない様、留意している。来訪時にご本人とご家族の潤滑油になる様、心がけている。	毎月、利用者の様子を家族に手紙で伝え、面会時や事務的な連絡の際も利用者の様子を伝えるなど、家族と情報の共有を図るようにしている。また、行事への参加を呼び掛けるなど、共に利用者を支えていく関係を築くよう努めている。	面会に来られず、利用者、事業所と疎遠になりがちな家族もある。広報紙の発行や日頃の暮らしぶりを伝える写真などの送付等、家族との関係が途切れないような工夫を今後も検討していくことを期待したい。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係継続の支援は出来ていない。外出の機会を多く設け地域社会と関わりが持てる様努めている。	家族からの話や利用者との会話などで、これまでの生活や馴染みの人、場所を把握するようにしている。友人など、訪ねて来る人は歓迎し対応している。後見人を通じて親族に会いに行ったケースもあった。	これまで生活してきた地域社会との関係が途切れないよう、馴染みの店や場所に出かけたり、友人を訪ねたり迎えたりといった支援が今後積極的に行われるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し時には職員が間に入り、関係性に配慮している。楽しく過ごせるよう情報の共有化を図り支援、見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取り組みは出来ていないがご家族よりご要望等があれば出来る限り対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中でご利用者の話しに耳を傾け把握に努めている。	入居時や様々な機会に利用者や家族の思いや希望を聞いている。また、利用者とのコミュニケーションを密にし、意向を引き出すよう努め、普段の会話や関わりの中からも把握するように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族よりこれまでの暮らし方の情報を得ている。面会時など関わりの中でご本人、ご家族より情報を得るようにしている。	入居時の面談や面会時などで家族からこれまでの暮らしについての情報を得ているほか、利用者との普段の会話の中からも把握するようにしている。それは小物作りや雑巾縫い、花壇作りの手伝いなどの活動として活かされている。	アセスメントの書式について、現在のところ、統一されたものが使われておらず、これまでの暮らしや思いなどの記述が十分とは言えない。今後センター方式のアセスメントを取り入れる予定とのことであるので、より本人のこれまでの生活や思いがきちんと記録され活用されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月1回のケアカンファレンス、3ヶ月に1回のアセスメントにて現状を把握している。その日の様子を記録し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族に意向を聞き計画に反映出来る様になっている。毎月1回のケアカンファレンスにて職員全員で話し合いを行っている。	それぞれの利用者の担当職員がアセスメントを行い、利用者、家族の意向が反映されるように、計画作成担当者と共に介護計画を作成している。さらにケアカンファレンスにおいて他の職員からも意見をもらい正式な計画とし、家族に確認してもらっている。3か月に1回、見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やエピソード等を記録に残し、職員間での情報の共有化、勤務開始前に確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じ受診代行や外食や買物などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員、民生委員から出席してもらっている。訪問理容、オムツ券の活用、協力施設よりフトカーを借りることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望に応じて対応している。ご家族同行が難しい場合は職員で受診代行を行っている。	利用者、家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めてもらっているが、便宜を考え、事業所の関連医療機関に変更する利用者も多い。関連医療機関の医師は往診も対応可能で、24時間連絡可能な体制が作られている。往診結果は文書で家族に報告しているほか、家族が通院同行する場合も受診結果を伝えてもらい共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置や訪問看護師の契約がない為かかりつけの医師に往診、受診の際、相談し助言をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご本人の情報を医療機関へ提供し家族とも回復状況等情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期ケアについて実施範囲や対象範囲について説明を行い重度化が進んだ際は改めて話し合い、関係者間で方針を共有して支援をしている。	入居時に、重度化した場合や終末期において事業所で対応できる範囲について説明している。また、重度化等、状況の変化があった場合は、その都度、家族や医師と話し合い、今後の対応について検討している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えてのマニュアルを整備し周知を図っている。	誤飲、誤嚥、嘔吐、火傷など、細かな項目ごとに対応を定めた緊急時対応マニュアルを作成し、各フロアに設置している。緊急時の連絡先も定めて掲示している。	マニュアルは整備しているが、応急手当や心肺蘇生などの実践的な訓練を行っていない。緊急時、慌てず適切な対応がとれるよう、それらの訓練を定期的に継続して行うことが求められる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを整備し避難訓練を実施し、また、定期的に消防署の協力を経て訓練を行っている。	火災や地震などを想定した災害時の対応マニュアルを整備している。避難訓練は毎月行い、職員の少ない夜間を想定しての訓練も実施している。また、年2回は消防署立ち会いでの訓練を行い、指導を得ている。	災害時における地域との連携・協力体制づくりはまだ具体的には行われておらず、事業所としてもこれからの課題としてその必要性を認識している。法人内の他のグループホームでの取り組みを参考にしながら引き続き検討していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちに合わせた対応を心がけているが馴れ合いの言葉使いを感じる時もある。	利用者の個人ファイル等は事務所の鍵のかかる棚に保管している。排泄時などの介護場面についてはプライバシーや尊厳を損ねないよう対応に配慮している。職員間で素直に意見を言い合える関係作りに努め、馴れ合いの言葉づかいになっている場合などは職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいような言葉がけの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが個人の生活リズムに合わせた対応を心がけている。食事の時間などに休息を希望される方には時間を置いて声をかけるなど対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方は本人の意向を尊重して支援しているが出来ない方には職員が選んでいる。食べこぼしや整容など気にかけるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る様にしている。食後はご利用者が下膳、食器拭きをしている。	利用者の食べたいものを聞きながら献立を作っている。食材は宅配を利用しているが、足りない食材を利用者と買いに行ったり、盛り付けや下膳、食器拭きなどを手伝ってもらっている。食事は職員も一緒に摂り、利用者と会話しながら楽しい時間となるよう心がけている。外食や誕生会、手作りおやつなどを楽しむ機会も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調、ご本人の好きな物や食べやすいものを把握し出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人に合わせて歯磨きを行っている。義歯の方にはブラッシングと夜は洗浄剤に浸けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンはつかめているもののリハビリパンツ内に失禁されている事が多くある。また、行動や様子を伺いながらトイレへ誘導している。	リハビリパンツの利用者がほとんどであるが、できるだけトイレでの排泄ができるよう、全員に排泄チェックを行い排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行っている。それにより、おむつ内の排泄からトイレで排泄できるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材や乳製品、水分量など配慮しているが運動の機会が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調や気分に合わせて入浴していただいている。拒まれる方には個々を尊重しつつ衛生面を考え入浴していただけるような声掛けを心がけている。	基本は午後の入浴であるが、希望によって、夕食後の入浴に対応したり、他の人の入った後を嫌う人にはお湯を入れ替えたり、また、同性介助の希望にも対応している。数種類の入浴剤を用意するなど、入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の疲れ具合を伺いながら居室やたたみコーナーで休んでいただいている。安眠のため温度調節、電気の調節をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、作用、副作用を把握できる様に説明をファイルにとじている。また、変更があった場合は受診ファイルに記録し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやたたみ物など一人ひとり出来る事を支援している。細かい作業が得意の方には針仕事や貼り絵などしてもらい楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせ散歩や買物を主に外出支援している。外食などの外出行事を企画している。	日常的に買い物や周辺の住宅地や神社への散歩に出かけている。また、外出希望に応じドライブに出かけることも多い。行事計画を立て、初詣や水族館、植物園、観光施設、レストランなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の金額を所持している方はいる。買物に同行しているが支払いは職員で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者に届いた手紙はご本人に渡し、かかってきた電話も本人へ取り次いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外には花壇を作り季節感を感じていただき、台所での調理の匂いを感じていただき、たたみコーナーで寝転がる事が出来ている。	広い共用空間には畳のスペースもあり、清潔感が保たれ、気になる臭いもなく、室温は事務所で適温に管理されている。壁面には行事の際に撮った写真や季節の装飾が飾られ、随所に花を活けるなど、季節を感じながら、ゆったり居心地良く過ごせるよう配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールの長いすやたたみコーナーなどで利用者同士思い思いに過ごせるような居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者のなじみのタンスや棚、仏壇など持ち込んでもらっている。	居室は整理整頓され、消臭スプレーを使うなどして気になる臭いがないよう配慮している。家族には使い慣れたものを持って来てもらうよう伝え、仏壇を持ち込んでいる人もいる。利用者の状態に応じ、新たに手すりを設置するなど安全面にも配慮している。	広い居室は清潔に保たれているが、装飾などがほとんどない居室もある。行事等の写真を飾ったり、家族に働きかけるなどし、居心地良い、その人らしい居室作りに向けてさらに工夫していくことを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にはご本人の分かるように目印をつけたり風呂場やトイレなど案内表示をしている。		